

(1) 授業づくり ― 活用力（思考力・判断力・表現力）を高めるために ―

①課題設定を工夫し、課題解決型の授業づくりをめざす。

- ・単元のねらいを明確にし、単元全体の見通しを児童に持たせ、活用につながる基礎・基本、単元をつらぬくものを意識した単元計画を立てる。
- ・本校の1時間の授業の流れの基本を【課題をつかむ（「ゴールの見通し」まで含める）→解決する（①自分で ②学び合いで）→まとめる→ふり返る】と定め、教師も児童も意識して授業にのぞむ。
- ・ねらいにせまるための課題内容とその設定、授業における課題提示の工夫をする。
- ・児童が自力解決できるよう、これまでの学習内容を定着させておくことと既習をふり返ることができる学習環境の工夫をする。

②協同的な学びを授業の中で展開する。

解決の場面では、ねらいにせまるための「聴き合う関わり」と「学び合う学び」のある授業にむけた授業展開をめざす。

③評価を大切にした授業づくりを積み重ねる。

毎時間、「学習課題に対する学びがどうだったのか。」ふり返らせることで、児童の「活用力」向上の自覚化や次時への意欲向上、教師の授業改善に活かす。

また、単元末の「活用力」評価問題を想定し、指導計画を作成したり授業改善に活かしたりする。

④活用につながる基礎・基本

単元の学習において、学習内容の系統や「活用力」向上を吟味した場合、次単元・他教科等で活用する内容を「活用につながる基礎・基本」とし、単元計画作成にあたる。

(2) 全員参加型の校内研修

ワークショップ型研修等を取り入れ、校内研修のあり方を見直すことで、研修会に積極的に参加して共通理解を図ったり、研究授業の成果と課題をさぐり日常の授業改善に活かしたりする。

(3) 家庭学習の充実（時間と内容）

全員が定められた時間、集中して取り組むことを目標にする。知識・技能の定着をめざした内容（知的なドリル作業）と「活用力」育成をめざした内容（ねばり強い思考・表現作業）について、全校で取り組む。